



明木公民館だより

《平成26年迎春号》

2013. 12. 28

編集・発行／明木公民館 TEL55-0001

あけまして おめでとうございます。

今年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

明木公民館職員一同

1月の行事予定(明木公民館関係&旭マルチメディアセンター会場分)

1日(水)	新春石ノ巷登山 午前6時に笛吹公民館前に集合です。	
2日(木) 13:30~14:15	成人式 ：萩市民館 明木の対象者は男性3人女性4人です。	
10日(金) 10:00~12:00	人権・行政相談 旭マルチメディアセンター	
14日(火) 10:00~11:30	萩雑学セミナー 「笑って得する内臓脂肪をためない10個の習慣」 講師 兼田医院事務長・京都医療センター研究員 同道正行 氏 ☆婦人学級・健康運動教室(旭・川上地域合同)・高齢者学級同時を開催	
23日(木) 13:30~	乳幼児健診 (旭・川上地域合同)	

みんなの願い「交通安全」

帰省や初詣で、成人式に同窓会など何かと出かけることの多いこの時期。自宅や訪問先の「お・も・て・な・し」で、お酒を飲む機会も増えそうです。笑顔で出かけ笑顔で帰宅するために、交通ルールを守り事故防止に努めましょう！

みんなで作ったしめ縄です！

12月25日(水)に旭マルチメディアセンターで小学生11人、中学生11人が石の巷山桜保存会の皆さんと一緒に恒例のしめ縄づくりをしました。ワラを撚り合わせて輪飾りを作ったり、石の巷山に張るながーい縄をなったりしました。





お正月の話

正月という言葉は、物事の起源・語義を解説した室町中期の類書「堪囊鈔（あいのおしよ）」によると、政治に熱心だった秦の始皇帝の誕生月を「政月（セイグツ）」と言っていました。やがて「正月」と書かれるようになり、呼び方も「シャウグツ」と改められたことに由来するそうです。

行事としての正月は、1年の初めにやってきて、五穀豊穡と家内安全の約束をしてくれる歳神様を家にお迎えし、祝うものです。

「歳神様」は正月様、恵方神、大歳神（大年神）、年殿、トシドン、年爺さん、若年さんなどとも呼ばれます。中世ごろから都市部で呼ばれるようになった「お歳徳（とんど）さん」は、徳は得に通じ縁起が良いとされたため、方位学にも取り入れられ、歳徳神のいる方角は「恵方」といって縁起の良い方角とされました。



初夢の話

現代では、元日の夜から二日の朝にかけてみる夢を初夢と言いますが、江戸時代には大晦日から元日にかけて見る夢、二日に見る夢、三日に見る夢など、いろいろな説があったそうです。また、昔から、夢は神仏の示しと信じられていたので、初夢には新しい年の吉凶を占う意味がありました。

室町時代ころからは「縁起の良い七福神の乗った宝船の絵を枕の下に入れて寝るとよい夢が見られる」と言われるようになり、宝船の絵には上から読んでも下から読んでも同じ文になる回文の歌「長き夜のおの眠りのみな目覚め波乗り船の音の良きかな」が書かれていたそうです。

お年玉の話

子どもたちの正月の楽しみの1つお年玉。2011年12月に学研教育総合研究所が実施した調査（小学生白書Web版）によると、小学生がもらうお年玉の平均は2万3473円なのだそうです。現在では、ポチ袋に現金を入れたものをお年玉として渡しますが、もともとは餅を入れていました。この餅は、正月に歳神様を迎える依り代として立てた門松に供えた餅で、お下がりとして子どもたちに食べさせ「御歳魂（おとしだま）」と呼んだ、歳神様にお供えした餅には霊力があり、それを年の初めに賜るという意味で「年賜（としたま）」と呼ぶようになったなど、いろいろな説があります。

室町時代になると、餅の代わりに金品がお年玉となった例が見られるようになり、茶わんや扇など様々なものが贈られるようになりました。



初詣での話

年末年始のテレビ中継で、全国的に有名な社寺に多くの方が初詣でに向かう様子が映し出されますが、本来、初詣には生まれた土地の産土神様や住んでいる場所の氏神様にお参りし、新年の無事と平安を祈願するものでした。

一家の主が大晦日に氏神様の社にこもり徹夜で家族の無病息災を祈る風習を「年ごもり」といいますが、これが除夜の鐘が鳴るころに詣でる「除夜詣で」と元旦に詣でる「元旦詣で」に分かれ、初詣での原型になったのだそうです。また、その年の縁起の良い方角の神社仏閣に参拝する「恵方詣で」も、初詣での原型とされています。